

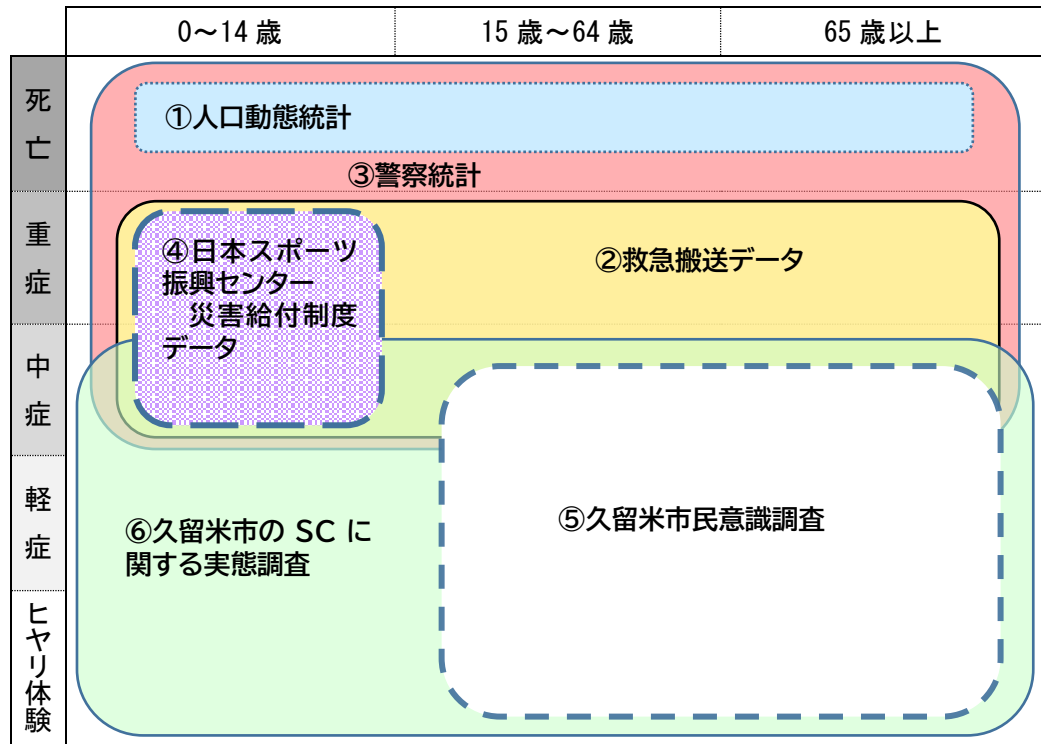
久留米市 主な統計データ

<目次>

1 外傷サーベイランスの全体像	2
2 外傷サーベイランスを構成するデータ	2
3 外的要因による死亡に関する状況 (人口動態統計)	4
4 救急搬送に関するデータ (久留米広域消防本部救急搬送データ)	10
5 交通事故に関する状況 (警察統計)	21
6 犯罪に関する状況 (警察統計)	26
7 児童相談に関する状況 (家庭子ども相談課集計)	32
8 児童のけがに関する状況 (日本スポーツ振興センター災害給付データ等)	36
9 高齢者虐待に関する状況 (長寿支援課集計)	39
10 DVに関する状況 (男女平等推進センター・家庭子ども相談課集計、 (久留米市男女平等に関する市民意識調査)	41
11 自殺に関する状況 (人口動態統計)	43
12 災害に関する状況 (気象庁ホームページ)	45

1 外傷サーベイランスの全体像

久留米市では、様々なデータを活用し各領域をカバーしている。



2 外傷サーベイランスを構成するデータ

外傷サーベイランスを構成するデータについては、持続可能なシステムにするために、次のとおり継続的なデータ収集の計画を立て収集・記録している。

No.	データの名称 (収集先)	内容 (収集頻度)	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	DV	自殺	防災
①	人口動態統計 (厚生労働省)	死亡に関する情報 (毎年)	●			●			●	
②	救急搬送データ (久留米広域消防本部)	けがや事故による救急搬送の情報 (毎年)	●		●	●			●	
③	警察統計 (久留米警察署)	交通事故や犯罪に関する情報 (毎年)	●		●		●			
④	災害給付制度データ (日本スポーツ振興センター)	学校のけがや事故に関する情報 (毎年)			●					
⑤	久留米市民意識調査 (久留米市)	けがや事故、犯罪、災害等への意識に関する情報 (5 年に 1 回)	●	●	●	●	●	●	●	●
⑥	久留米市の SC に関する実態調査 (久留米市)	けがや事故及び SC の取組に関する情報 (5 年に 1 回)	●	●	●	●	●	●	●	●

【個別データ】

No.	データの名称 (収集先)	内容・収集頻度	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	D V	自殺	防災
1	自転車駐車場利用者アンケート (久留米市)	自転車安全利用に関する情報 (毎年)	●							
2	家庭子ども相談課相談記録 (久留米市)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●				●		
3	児童相談所相談記録 (福岡県)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●						
4	児童生徒の問題行動に関する調査 (文部科学省)	いじめの発生・解決件数等に関する情報 (毎年)			●					
5	あんぜんアンケート (久留米市)	小学生の安全に対する意識に関する情報 (毎年)			●					
6	高齢者実態調査 (久留米市)	高齢者の転倒や虐待に関する認識等に関する情報 (3年に1回)				●				
7	長寿支援課記録 (久留米市)	高齢者虐待の発生や相談に関する情報 (毎年)				●				
8	市政アンケートモニター (久留米市)	体感治安や市政への意向・ニーズに関するアンケート (毎年)					●			
9	男女平等に関する市民意識調査 (久留米市)	D Vや男女平等に対する意識に関する情報 (5年に1回)						●		
10	男女平等推進センター記録 (久留米市)	D V発生や相談に関する情報 (毎年)						●		
11	自殺の原因・動機別データ (警察庁)	自殺について原因や動機別に表した統計データ (毎年)							●	
12	保健予防課記録 (久留米市)	精神保健相談等に関する情報 (毎年)							●	
13	防災対策課記録 (久留米市)	自主防災活動等に関する情報 (毎年)								●

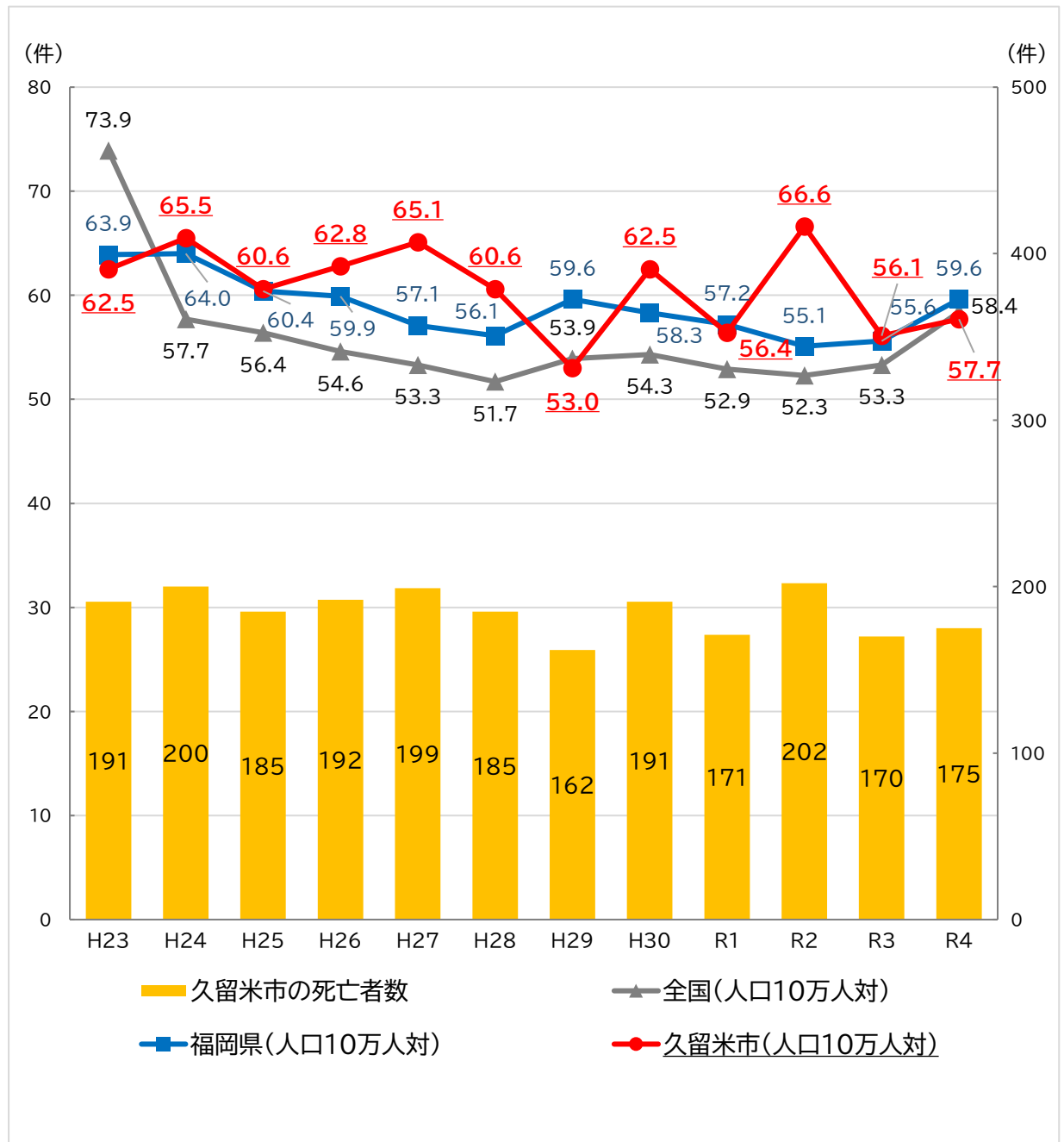
3 外的要因による死亡に関する状況

(1) 外的要因による死亡者数（人口動態統計）

久留米市の外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばいで推移しています。

令和4年は前年度より増加していますが、全国や福岡県の上昇率を下回ったことから、人口10万人あたりの死亡者数は全国や県を下回りました。

■[図 3-1]外的要因による死亡者数、及び人口10万人当たりの数の推移



(2) 年齢階級別の死亡原因上位（福岡県保健統計年報） ※病気等による死亡含む

外因及び病気等による死亡原因を年齢層ごとにみると、自殺が10歳代から30歳代までの死亡原因の1位、40歳代から50歳代では2位となっています。

また、30歳代以下では、他の年齢層とは異なり不慮の事故による死亡が死亡原因の上位に位置しています。

■[図 3-2] H29～R3 年の年齢階級別の死亡原因上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	染色体異常等 (14)	周産期に発生した病態 (5) <u>不慮の事故 (5)</u> …溺死溺水(2)、窒息(2)、転倒転落墜落(1) その他の症状 (5)			感染症等(2) インフルエンザ(2)
10～19歳	自殺(16)	新生物〈腫瘍〉(3) <u>不慮の事故(3)</u> …交通事故(2)、転倒転落等(1)	神経系の疾患(2)	消化器系の疾患(1) その他の症状(2)	
20～29歳	自殺(26)	新生物〈腫瘍〉(9)	<u>不慮の事故(8)</u> …交通事故(8)	神経系の疾患(6)	その他の症状(3)
30～39歳	自殺(30)	新生物〈腫瘍〉(24)	<u>不慮の事故(8)</u>	その他の症状(6)	内分泌、栄養及び代謝疾患(5)
40～49歳	新生物〈腫瘍〉(109)	自殺(47)	脳血管疾患(22)	心疾患(17) その他の症状(17)	
50～59歳	新生物〈腫瘍〉(237)	自殺(47)	脳血管疾患(45)	心疾患(44)	消化器系の疾患(37)
60～69歳	新生物〈腫瘍〉(768)	心疾患(97)	脳血管疾患(81)	消化器系の疾患(74)	その他の症状(65)
70～79歳	新生物〈腫瘍〉(1,421)	心疾患(217)	脳血管疾患(193)	その他の呼吸器系疾患(172)	肺炎(140)
80～89歳	新生物〈腫瘍〉(1,664)	心疾患(684)	脳血管疾患(472)	その他の呼吸器系疾患(440)	肺炎(390)
90歳以上	老衰(803)	心疾患(791)	新生物〈腫瘍〉(674)	脳血管疾患(388)	肺炎(343)

(3) 死亡統計における不慮の事故等のデータ（人口動態統計）

①年齢層別 不慮の事故等による死亡の上位5位

10～69歳の自殺の件数は他の要因と比較して特に多い。

また、高齢になるほど溺死・溺水、転倒・転落、窒息による死亡が多い。

■[図 3-3]H30～R4 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	窒息(2)	交通事故(1) 転倒・転落(1) 溺死・溺水(1)			
10～19歳	自殺(15) ↔ 交通事故(2)	転倒・転落(1)			
20～29歳	自殺(27) ↔ 交通事故(6)				
30～39歳	自殺(33) ↔ 溺死・溺水(3)		交通事故(1) 転倒・転落(1) 窒息(1) 煙・火(1) 中毒(1)		
40～49歳	自殺(48) ↔ 窒息(3)		交通事故(2) 転倒・転落(2) 溺死・溺水(2)		
50～59歳	自殺(49) ↔ 交通事故(5)		溺死・溺水(3) 窒息(3)	中毒(2) その他不慮の事故(2)	
60～69歳	自殺(40) ↔ 溺死・溺水(15)		窒息(9) その他不慮の事故(9)	交通事故(7)	
70～79歳	溺死・溺水(59)	自殺(30)	窒息(20)	その他不慮の事故(13) 転倒・転落(13)	
80～89歳	溺死・溺水(78)	転倒・転落(37)	その他不慮の事故(33)	自殺(25)	窒息(24)
90歳以上	転倒・転落(44)	溺死・溺水(28)	窒息(22) その他不慮の事故(22)		自殺(3)
合計	自殺(270)	溺死・溺水(189)	転倒・転落(103)	窒息(84)	その他不慮の事故(80)

(次ページと比較)

過去の累計と比較すると、全体的に交通事故による死亡が減少している。また、10歳代の自殺、70歳以上の溺死・溺水、80歳以上の転倒・転落による死亡数が増加している。

【平成 25 年認証申請書より】

■[図 3-4]H19～H23 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

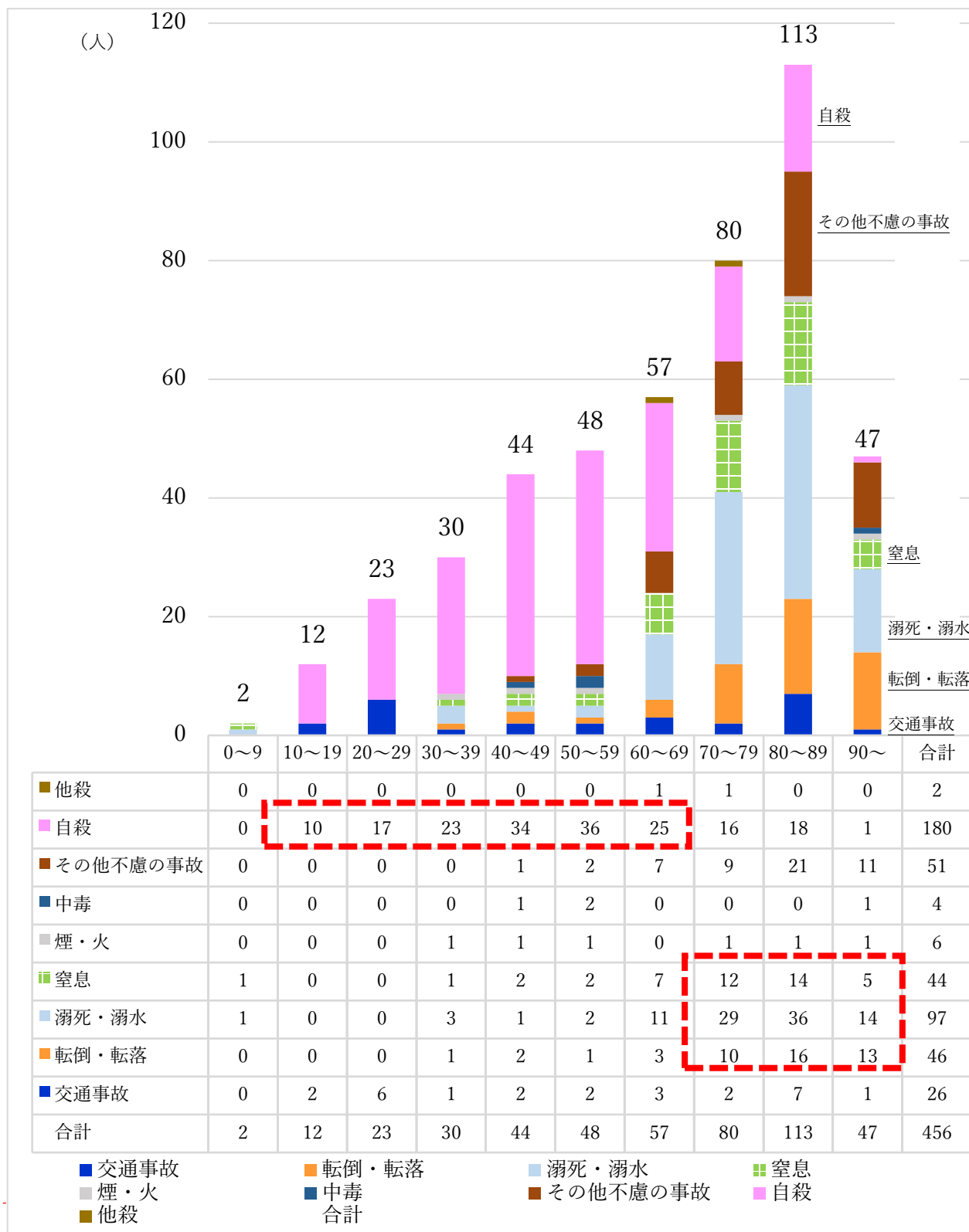
年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水(2)	交通事故(1)			
10～19歳	自殺(8)	交通事故(5)	転倒・転落(1)		
20～29歳	自殺(38)	交通事故(7)	溺死・溺水(4)	煙・火(1)	
30～39歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(4)	転倒・転落(2)	他殺(1)
40～49歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(3)	溺死・溺水(2)	転倒・転落(1)
50～59歳	自殺(86)	交通事故(13)	溺死・溺水(4)	窒息(7)	その他不慮の事故 (6)
60～69歳	自殺(56)	溺死・溺水(14)	交通事故(12)	窒息(10)	転倒・転落(7)
70～79歳	溺死・溺水(44)	自殺(40)	窒息(26)	転倒・転落(25)	交通事故(17)
80～89歳	溺死・溺水(55)	窒息(22)	その他不慮の事故 (28)	転倒・転落(24)	自殺(21)
90歳以上	転倒・転落(23)	窒息(22)	溺死・溺水(11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故(6)
合計	自殺(369)	溺死・溺水(143)	窒息(115)	転倒・転落(88)	交通事故(84)

② [男性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計）

80 歳代の件数が最も多く、要因として溺死・溺水の件数が多い。

10～60 歳代は自殺の件数が最も多く、70 歳以上は、溺死・溺水、窒息、転倒・転落の件数が多くなる。

■[図 3-5] 男性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（H30～R4 年の 5 年間累計）

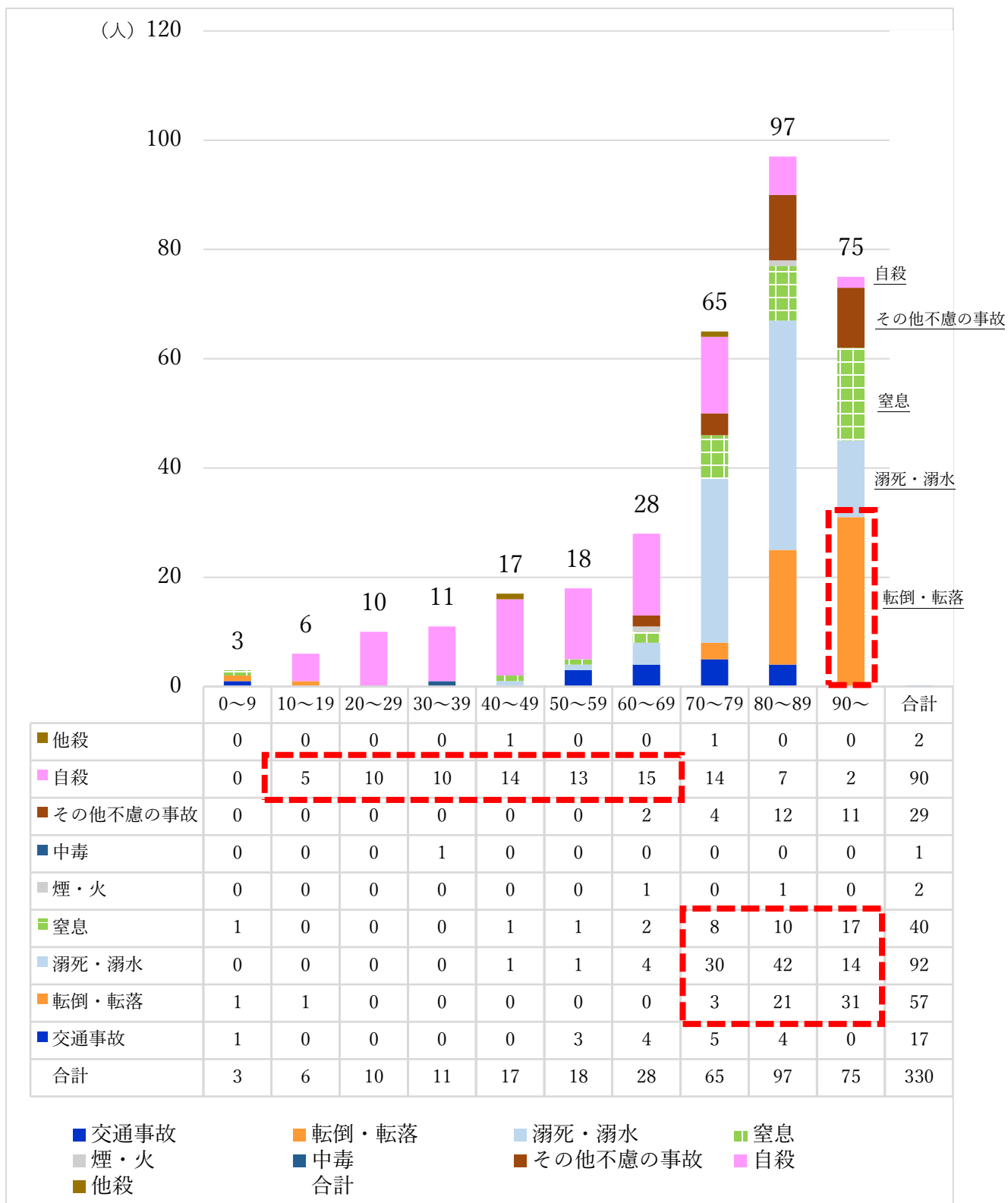


③ [女性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計、H30～R4 年の 5 年間の累計）

男性と同じく 10～60 歳代では自殺の件数が最も多く、70 歳代以上では溺死・溺水、窒息、転倒・転落である。

なお、男性と比べ 90 歳以上では転倒・転落がによる死亡数が多い。

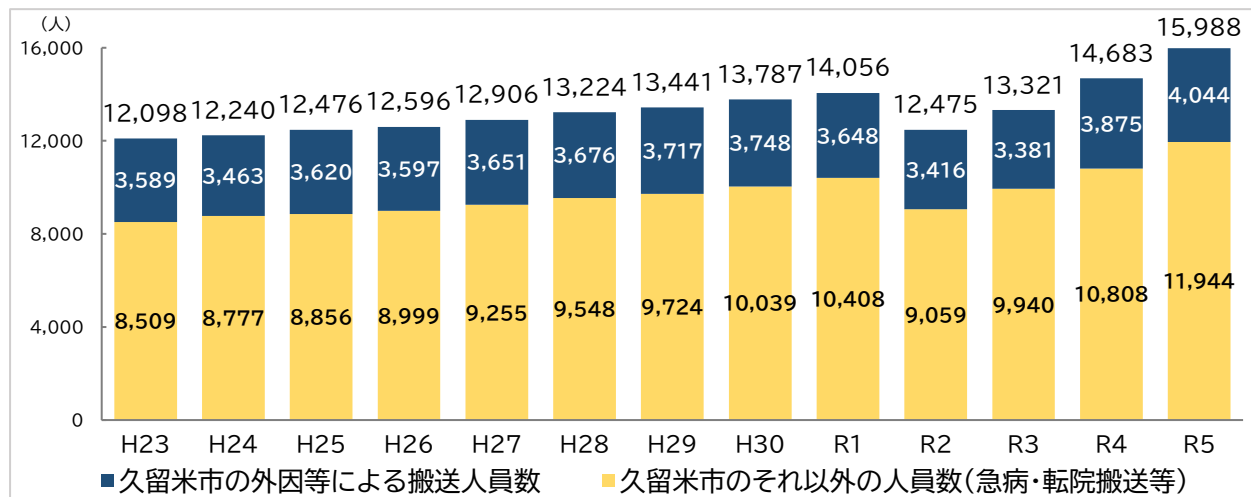
■[図 3-6]女性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（H30～R4 年の 5 年間累計）



4 救急搬送に関するデータ(久留米広域消防本部救急搬送データ)

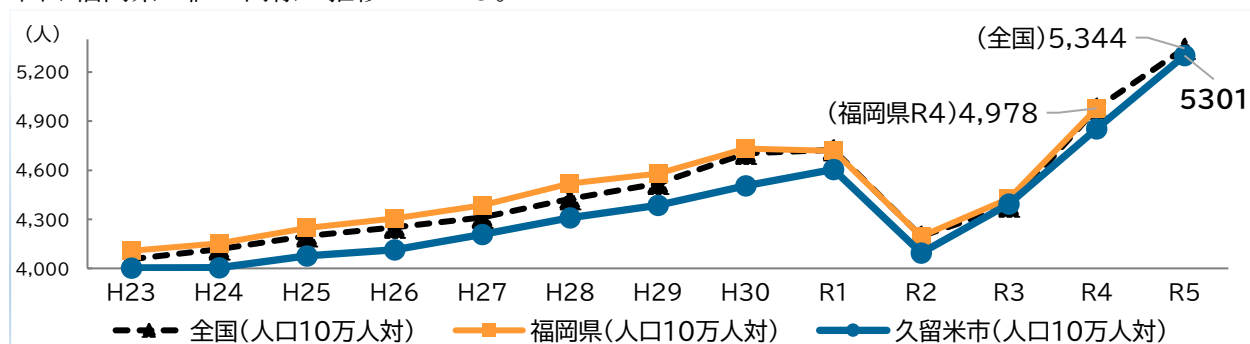
(1) [図 4-1]救急搬送人員数

救急搬送人員数全体及びけがや事故による救急搬送人員数は増加傾向にある。

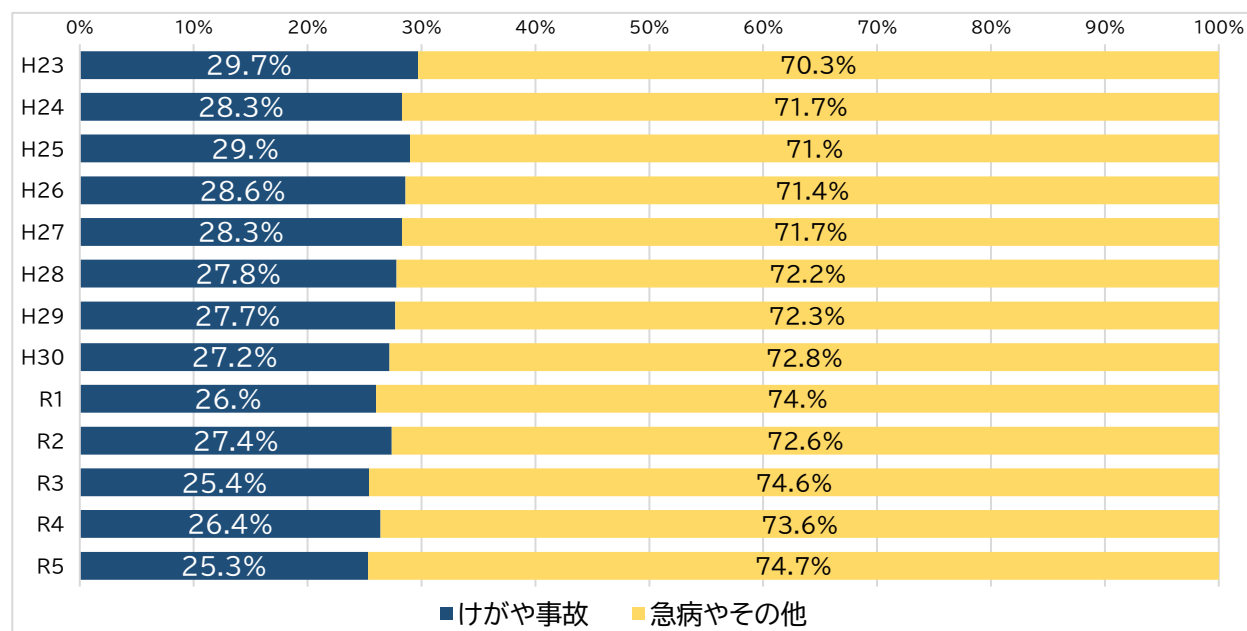


(2) [図 4-2]人口 10 万人当たりの救急搬送人員数 (外因及び急病・転院搬送等含む)

国や福岡県の値と同様に推移している。

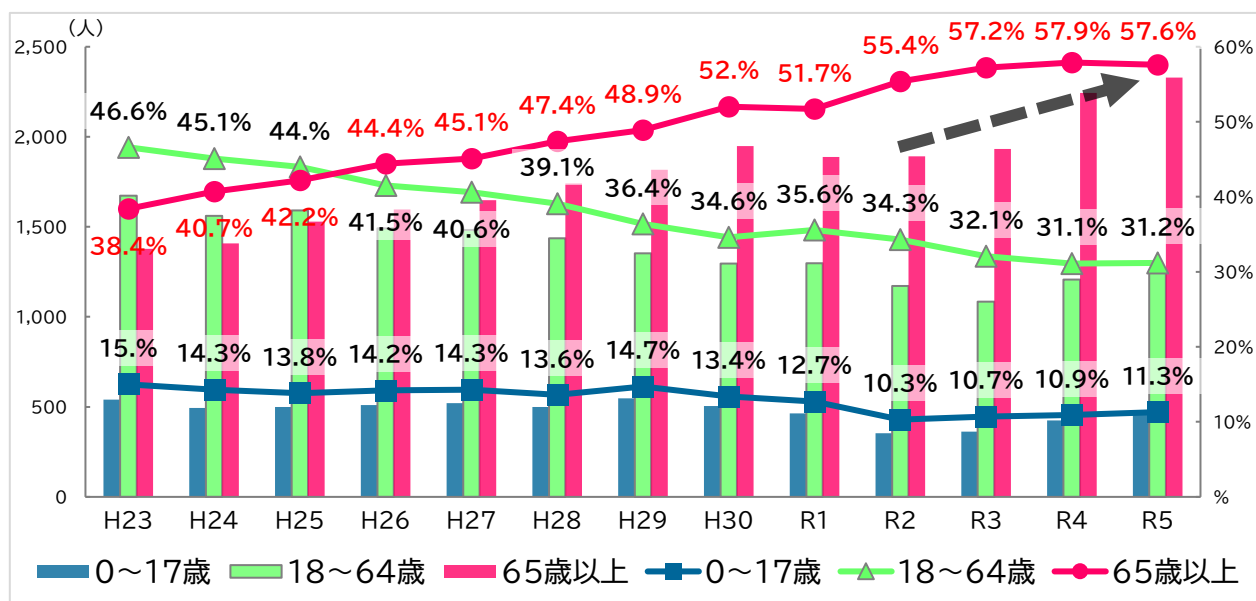


(3) [図 4-3]緊急搬送に占める外的要因 (けがや事故) による搬送割合



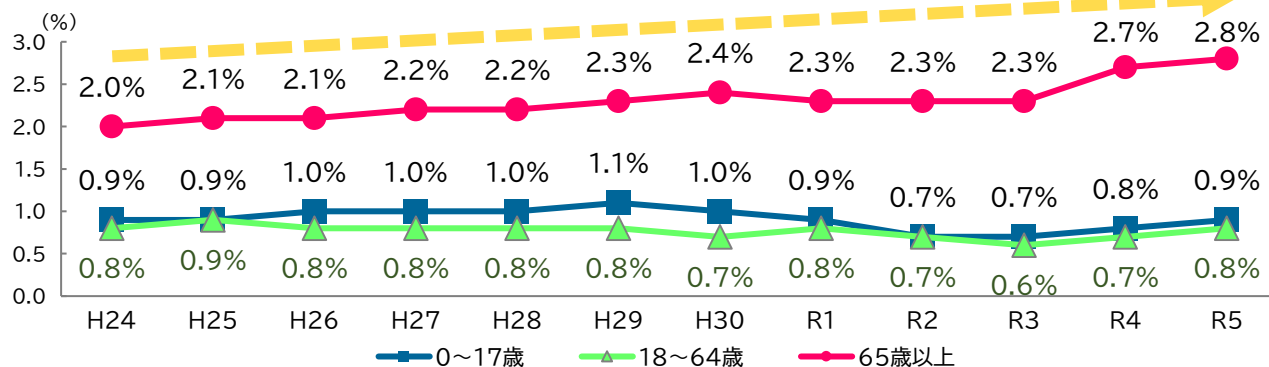
(4) [図 4-4]年齢層別外因による救急搬送人員数

0～17 歳、18～64 歳の搬送数は減少している一方で、65 歳以上の高齢者の搬送数が伸びている。



(5) [図 4-5]年齢層別外因による救急搬送の発生率

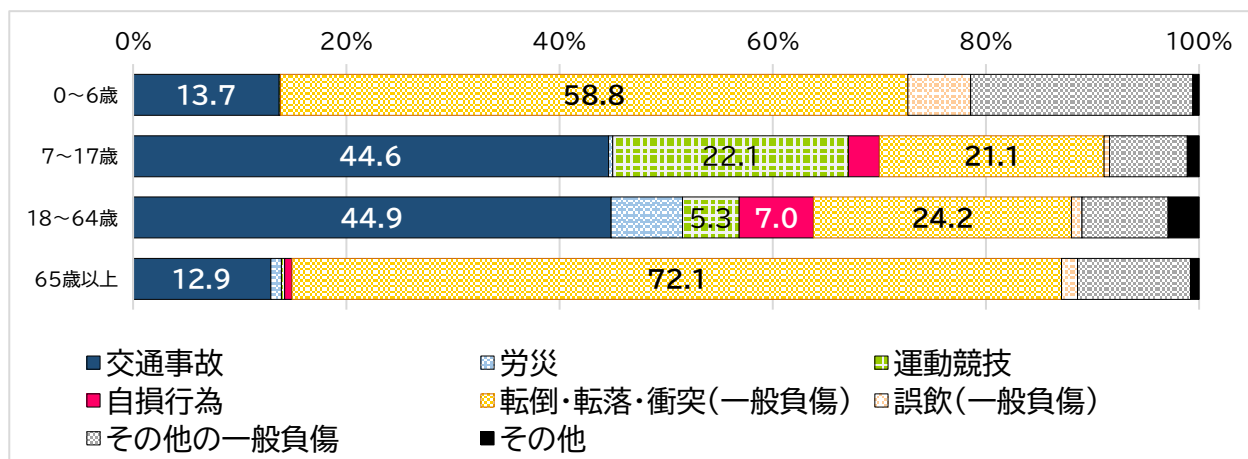
65 歳以上の高齢者の救急搬送の発生率は、増加傾向にある。



(6) [図 4-6]年齢層ごとの受傷原因

7～17 歳と 18～64 歳では、「交通事故」の占める割合が約 45%と高くなっています。

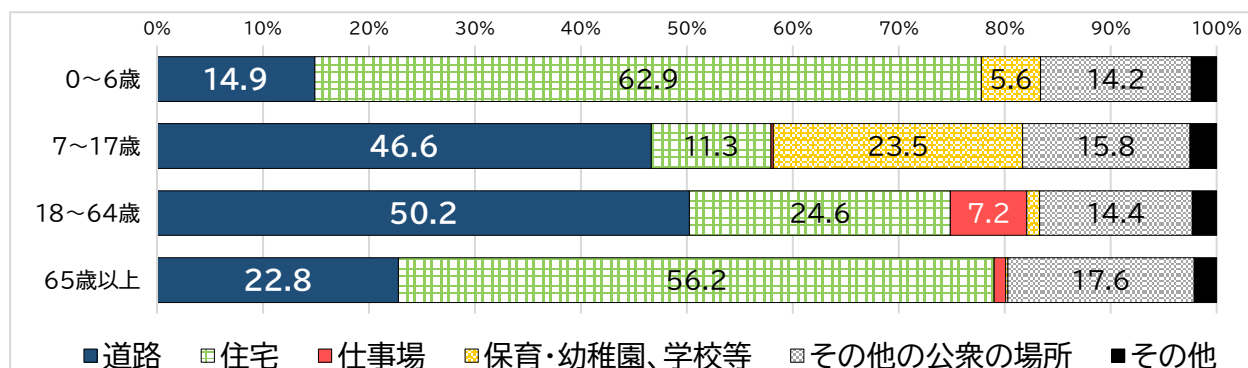
また、0～6 歳と 65 歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高く、特に 65 歳以上では、70%以上を占めています。さらに特徴として、0～6 歳では「誤飲」、7～17 歳では「運動中のけが」、18～64 歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。



(7) [図 4-7]年齢層ごとの受傷場所

0～6 歳と 65 歳以上では、「住宅」の占める割合が約 60%と高くなっています。

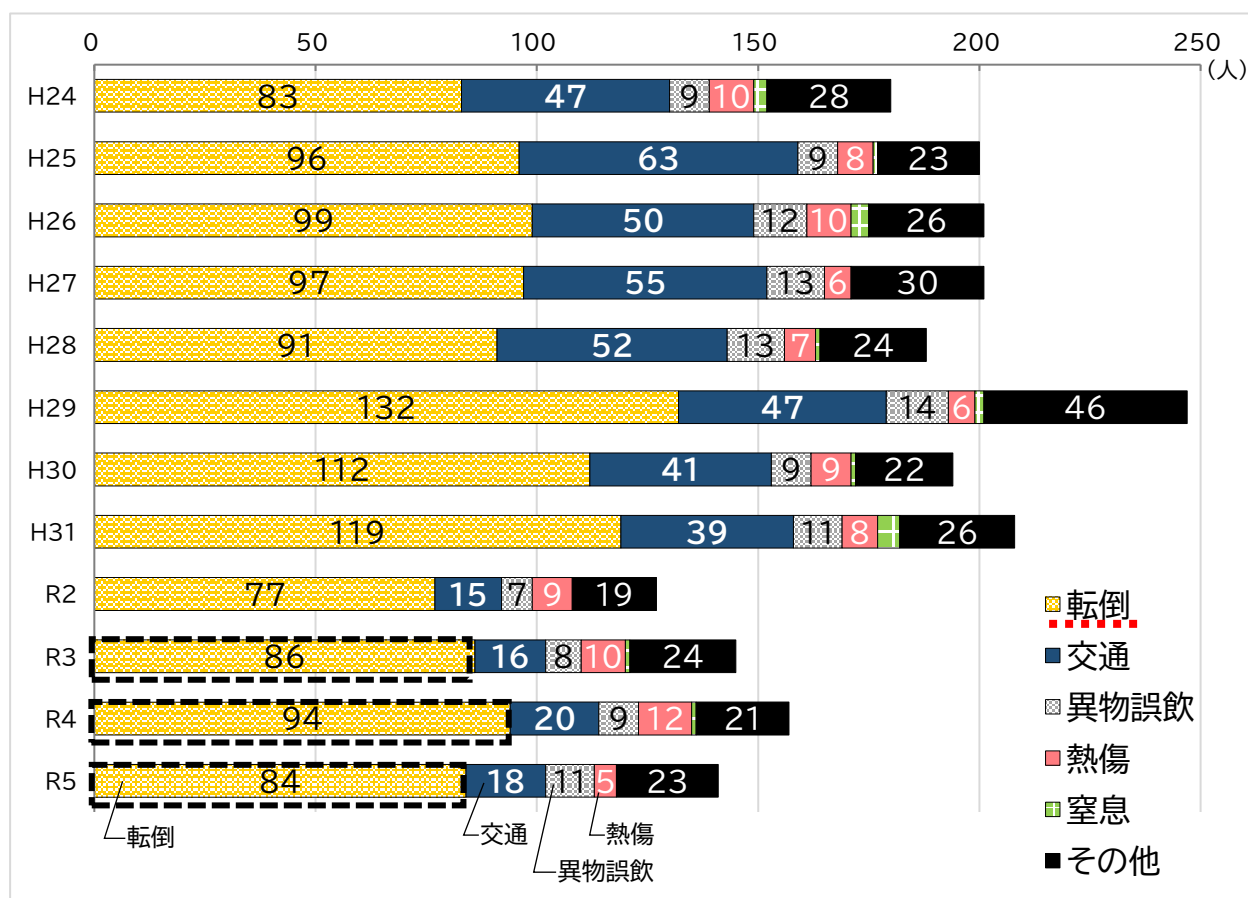
また、7～64 歳では、「道路」の占める割合が約 50%と高くなっています。さらに特徴として、7～17 歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。



(8) 年齢層ごとの事故種別内訳

①[図 4-8]乳幼児（0～6 歳）

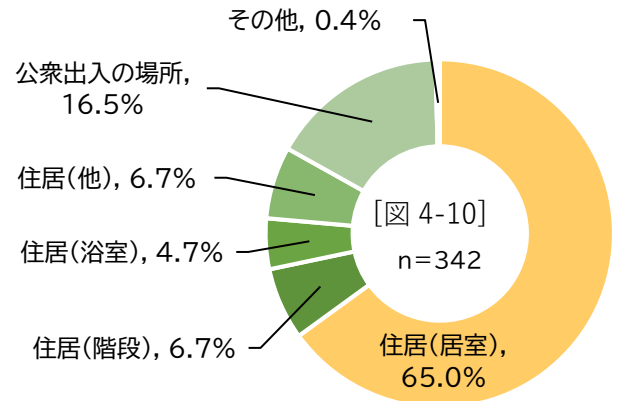
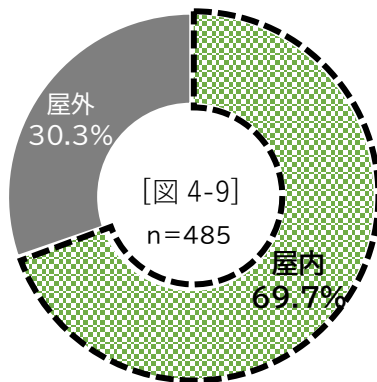
コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。特に転倒・転落による搬送が増加している。



乳幼児の転倒場所の多くは、屋内である。また、屋内のうち、約7割が居室で発生している。

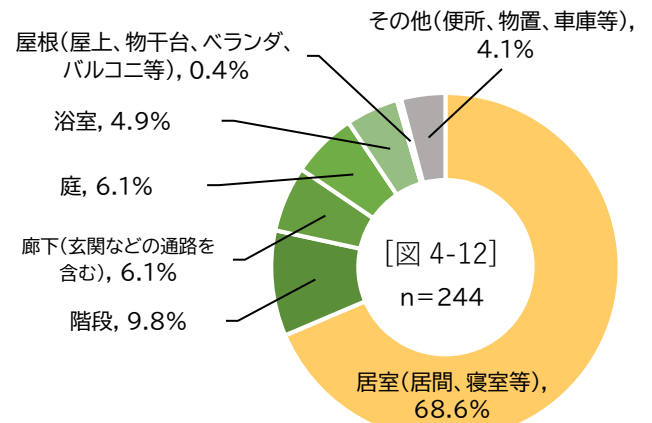
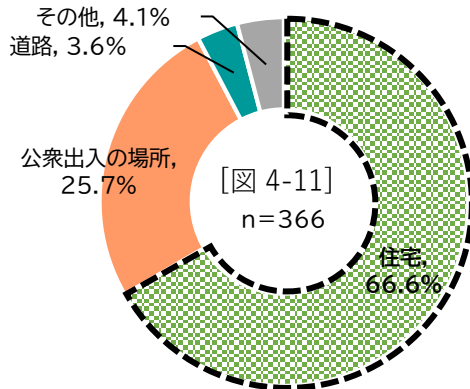
■乳幼児の転倒場所の割合（R2～5年の合計） → ■屋内の場所（※R2～5年の合計）

【屋内・屋外】



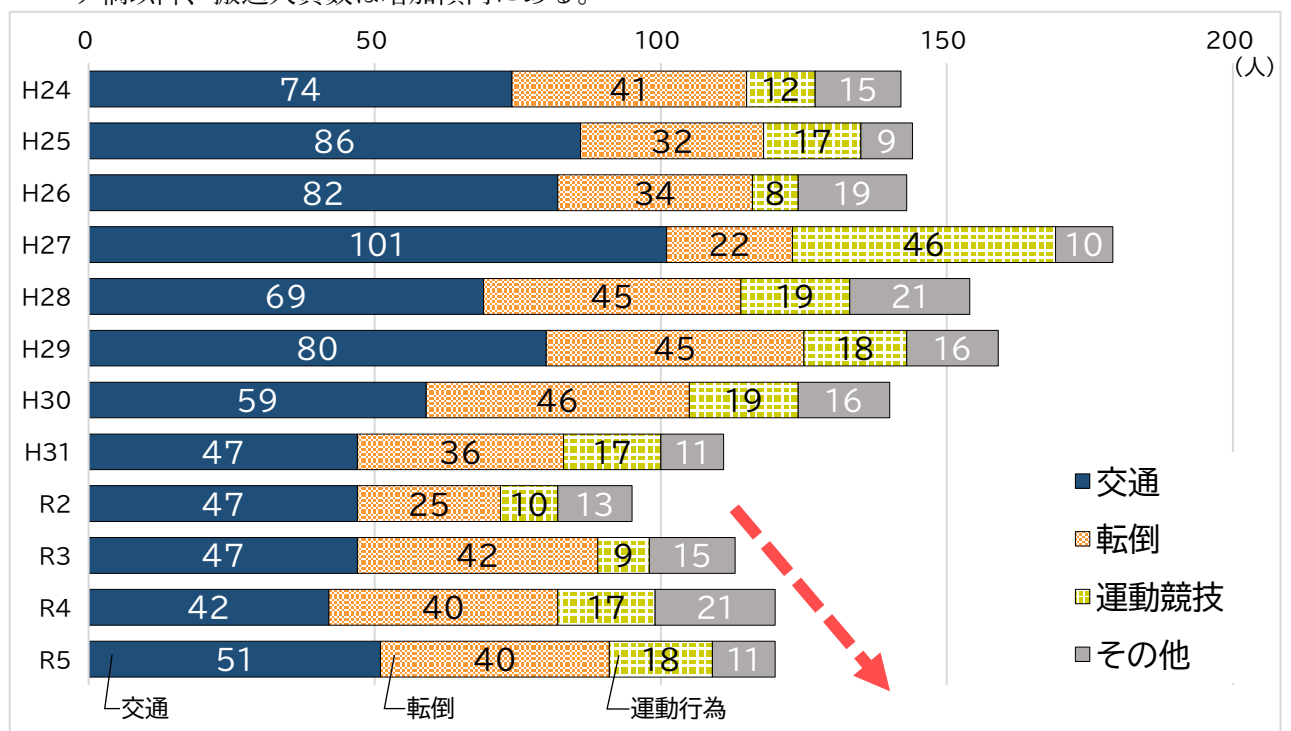
■乳幼児の転倒場所の割合（R2～5年の合計） → ■住宅の内訳（※R2～5年の合計）

【住宅・公衆出入の場所・道路・その他】



②[図 4-13]小学生

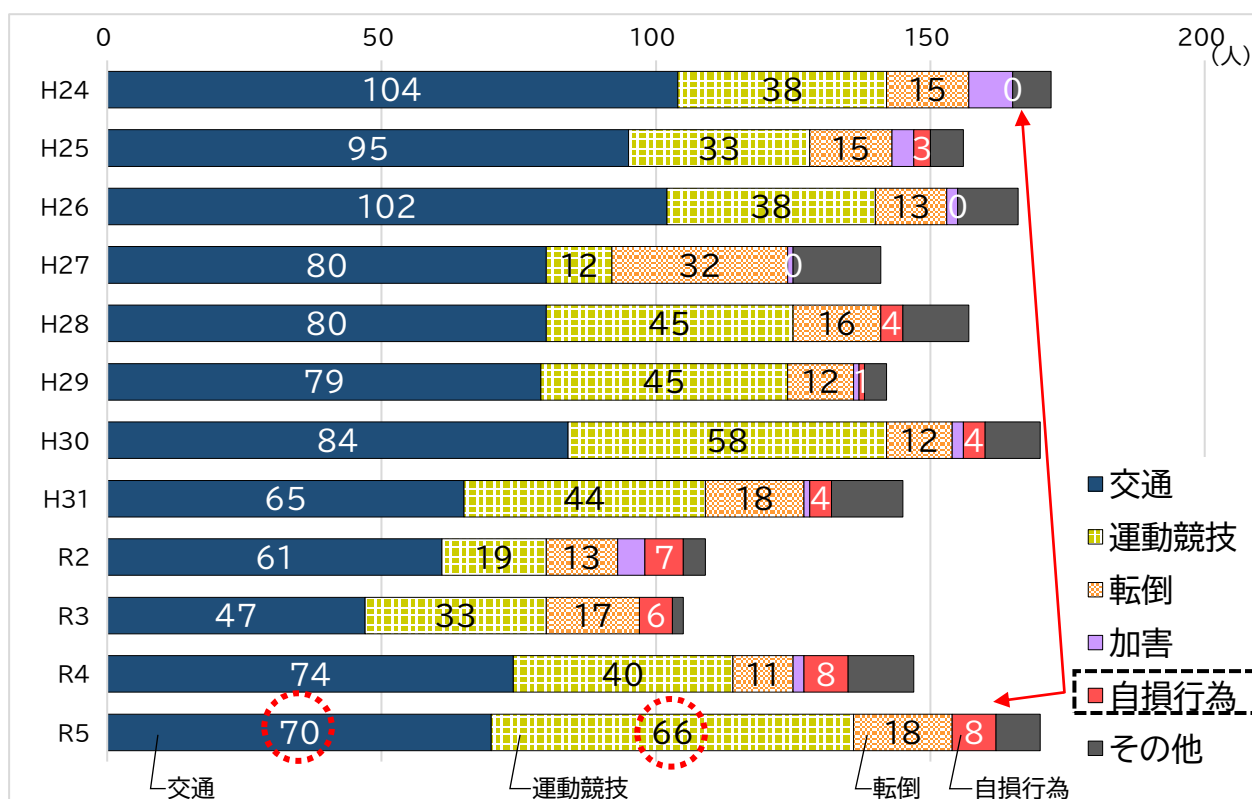
コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。



③[図 4-14]中高生

近年は交通事故や運動競技による救急搬送が急増している。

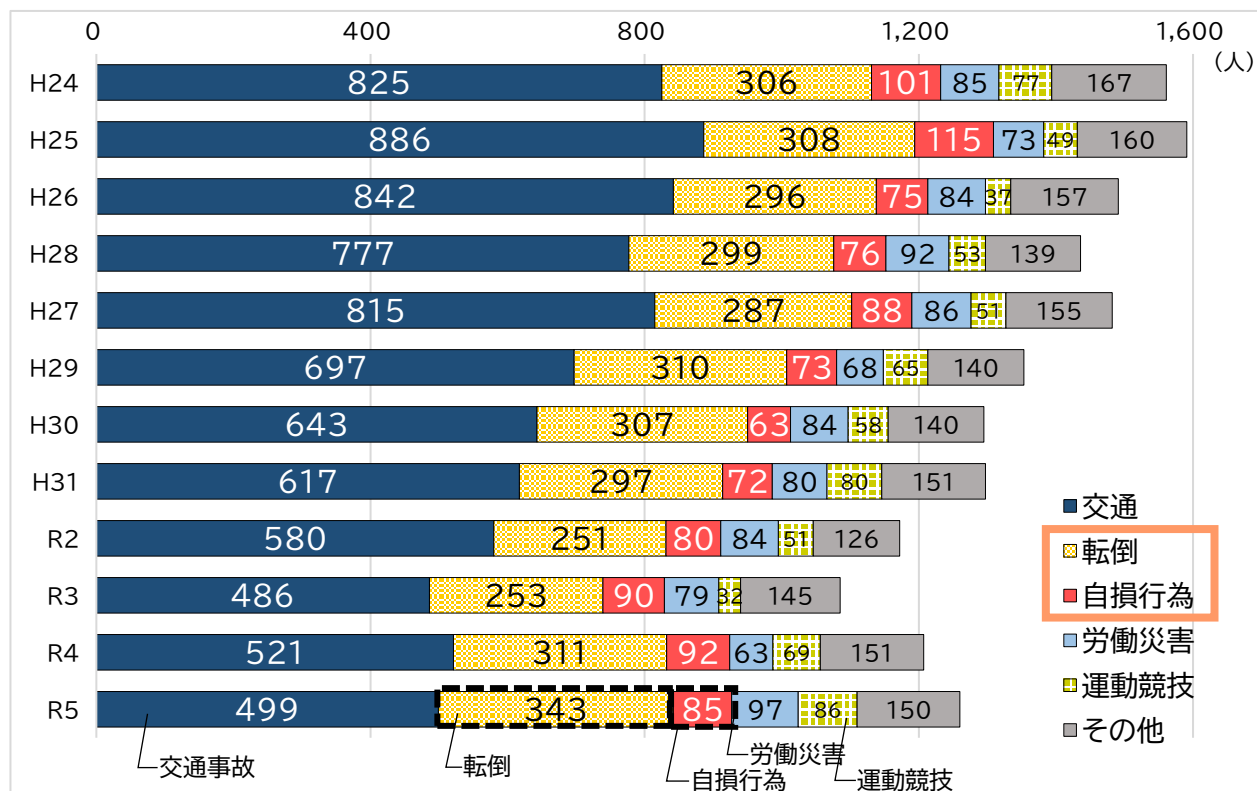
また、以前と比べ自損行為による搬送件人員数が増加している。



④[図 4-15]成人

H30 年以降、自損行為による搬送数が増加傾向にある。

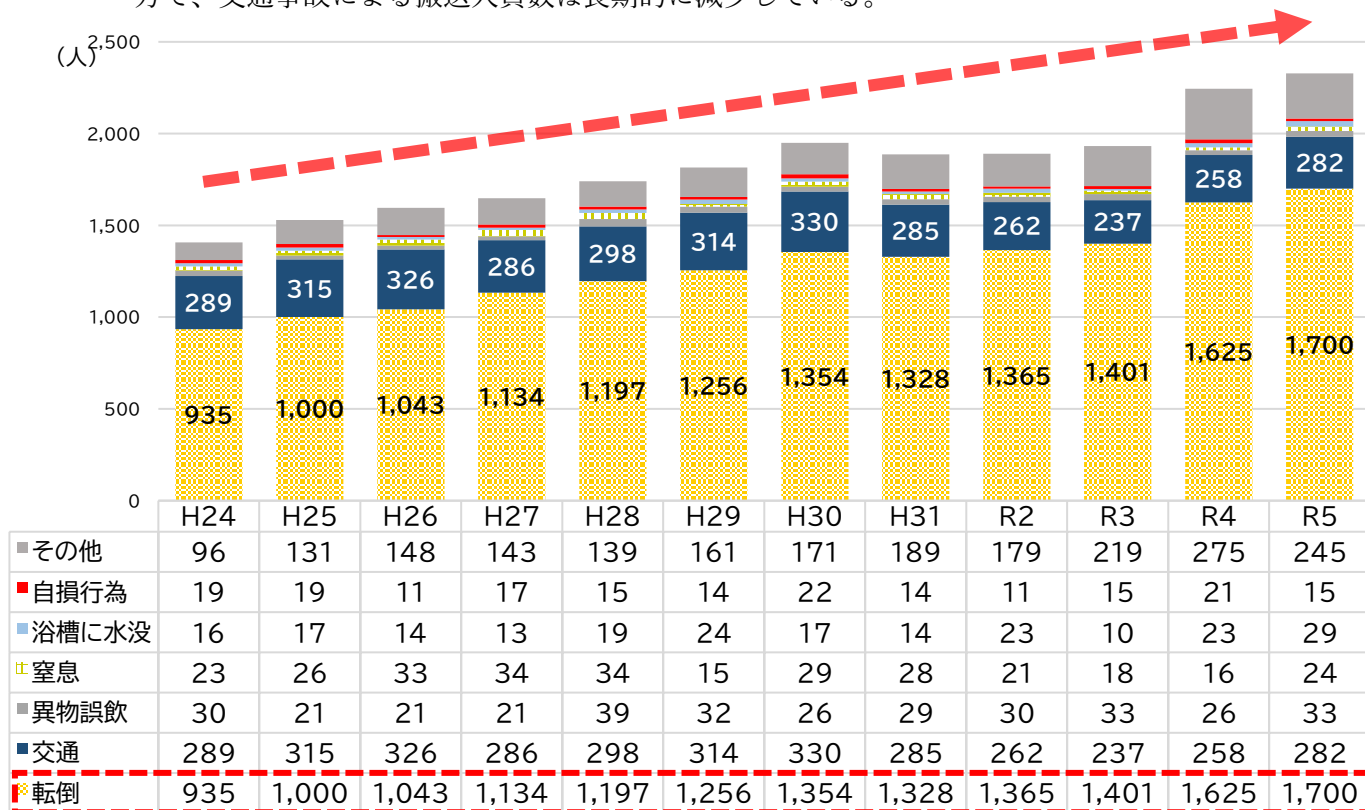
また、コロナ禍以降は転倒・転落等による搬送が大幅に増加している。



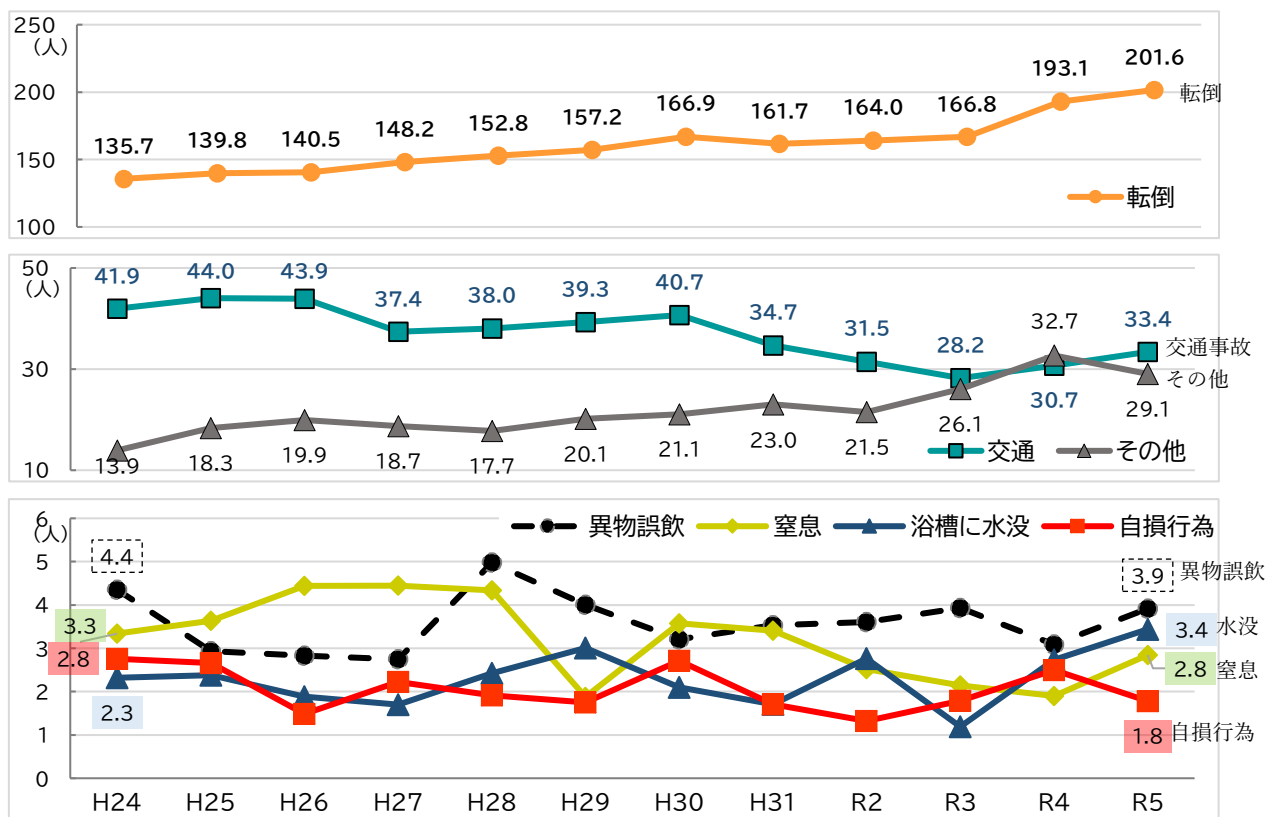
⑤[図 4-16]高齢者

救急搬送人員数は増加傾向にある。特に、転倒転落による搬送数が増加している。

一方で、交通事故による搬送人員数は長期的に減少している。



■[図 4-17]高齢者人口 1 万人当たりの事故種別の救急搬送人員数

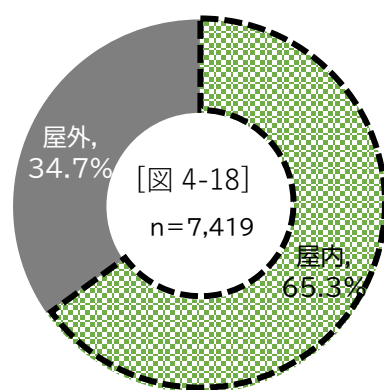


転倒場所は、60～70%が屋内である。

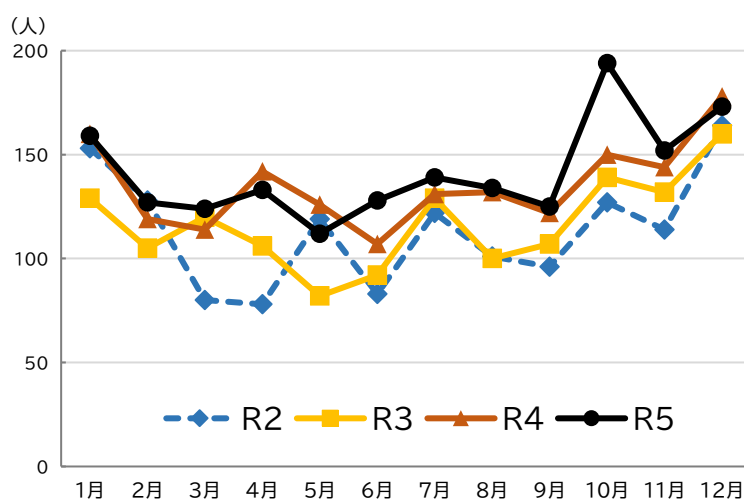
また、10月から1月にかけて転倒による搬送人員数が多くなる

■高齢者の転倒場所の割合

(R1～5年の合計)

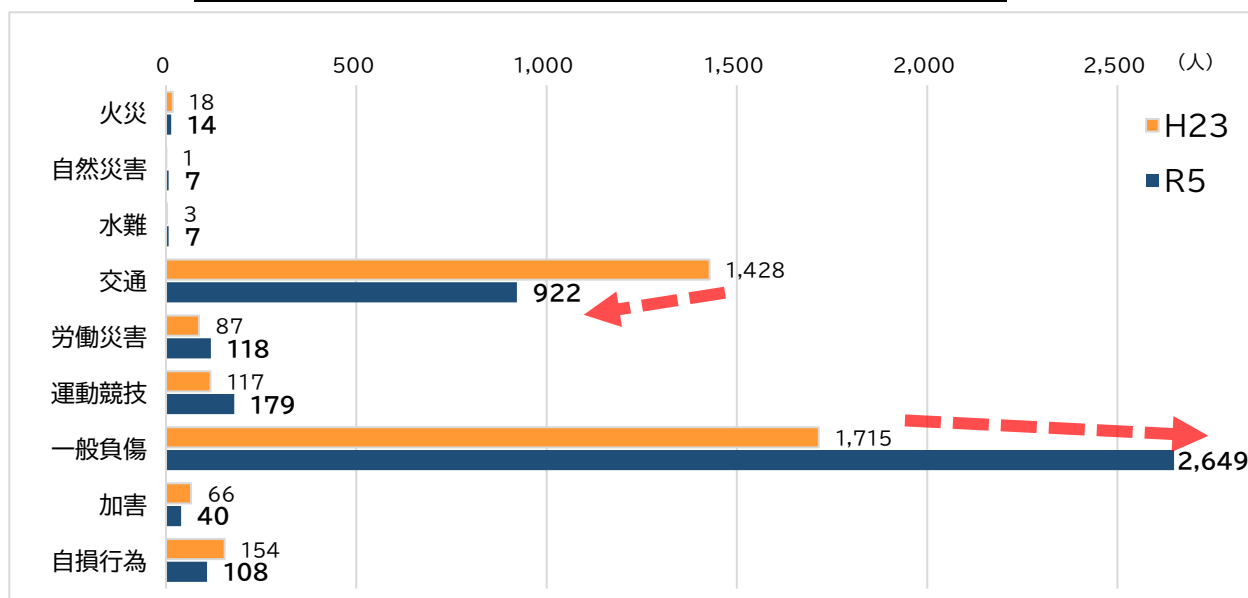


■[図 4-19]月ごとの高齢者の転倒による搬送人員数



(9) [図 4-20]事故種別ごとの搬送人数 (全年齢)

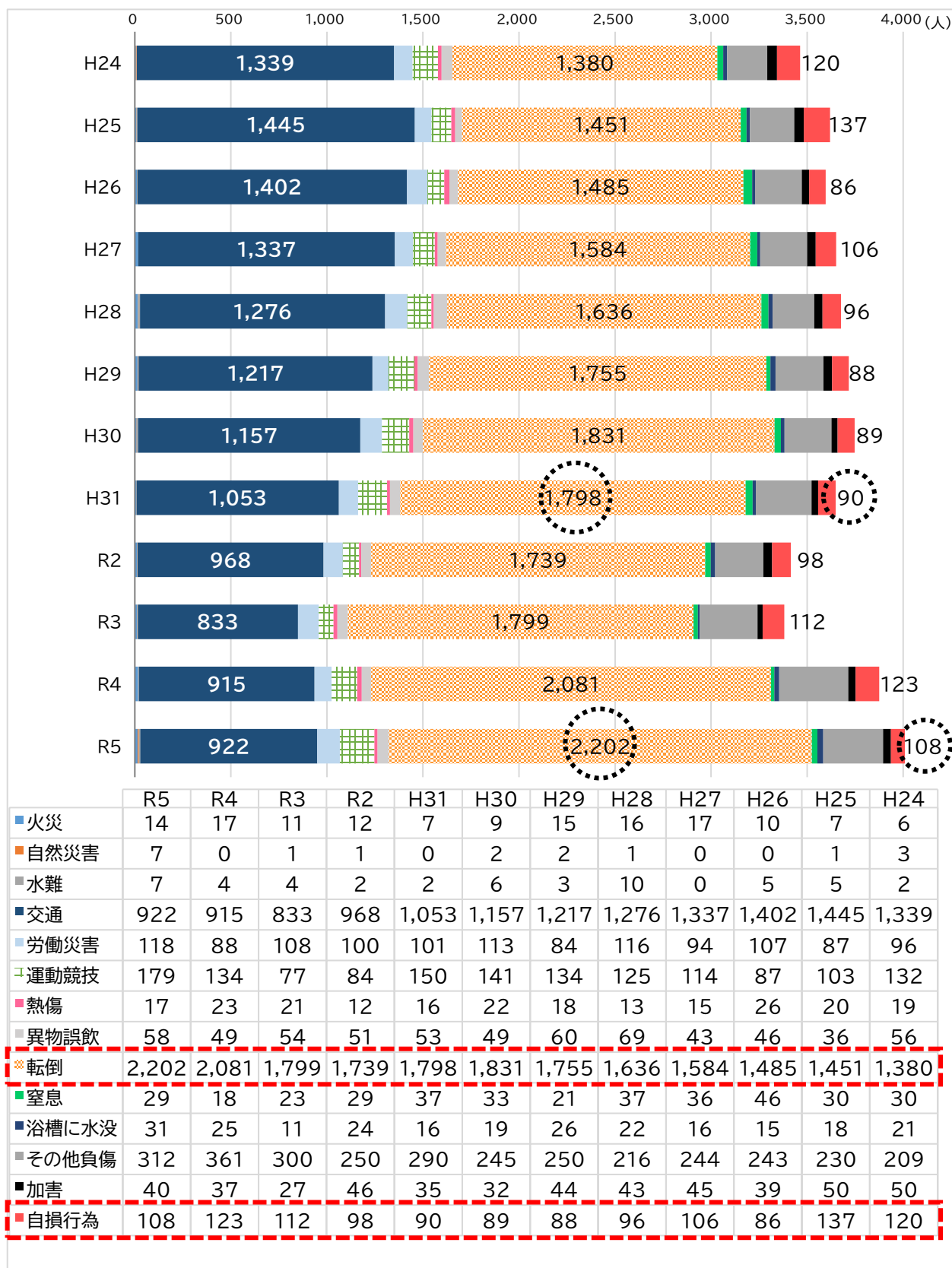
事故種別を見ると、SC の取り組みを始めた H23 年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多いが、交通事故による搬送は減少し、一般負傷は大幅に増加している。



※一般負傷：転倒(転落)、熱傷、誤飲、窒息等

(10) [図 4-21]事故種別ごとの搬送数（全年齢）

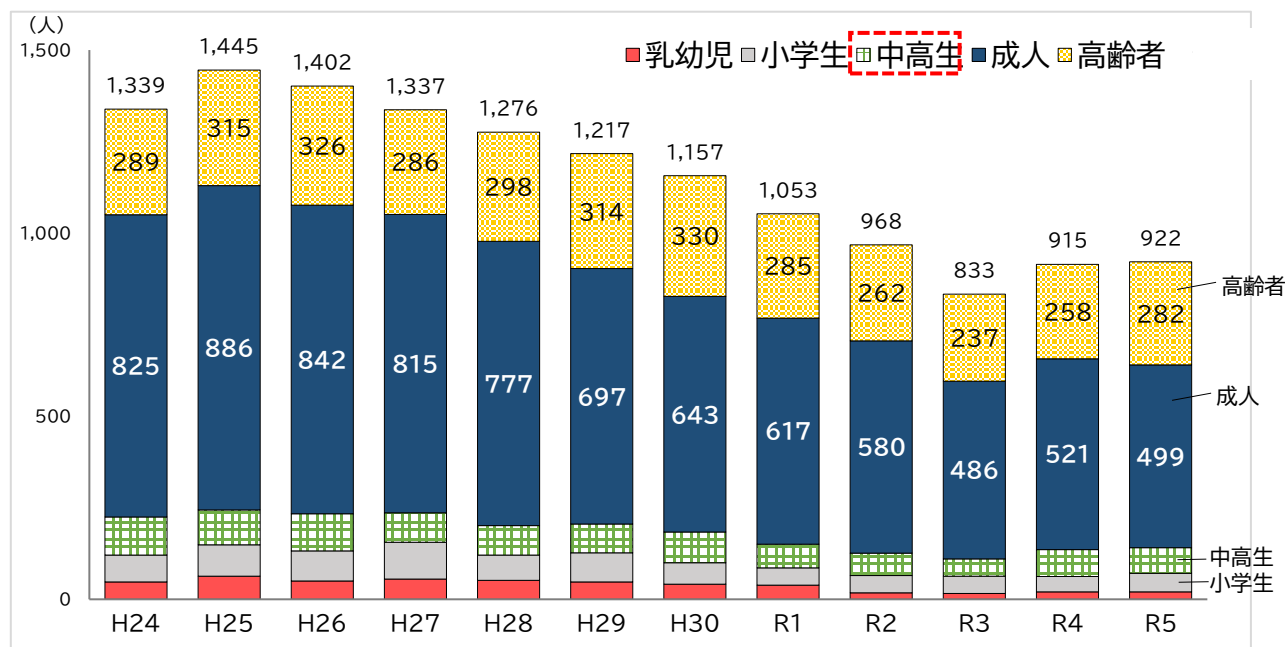
転倒・転落等と自損行為による搬送がコロナ禍前より増加している。



(11) 事故種別ごとの年齢別内訳

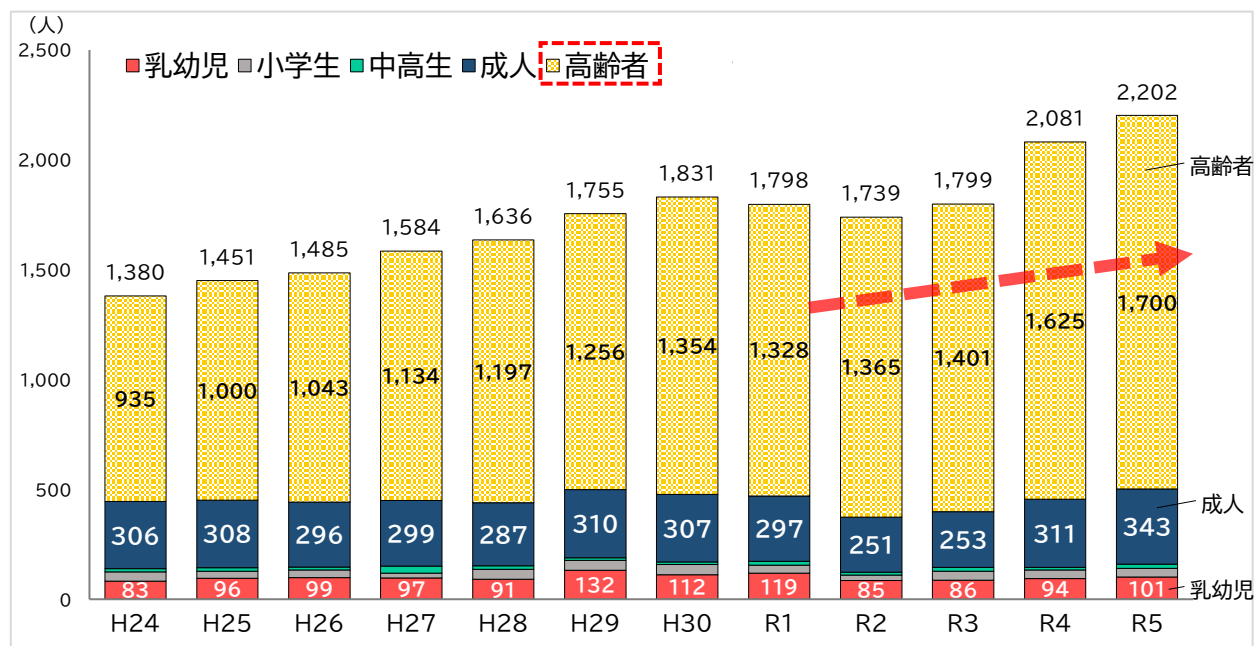
①[図 4-22]交通事故

交通事故による救急搬送人員数は長期的に減少傾向にあるが、中高生はコロナ禍前の値を上回って増加している。



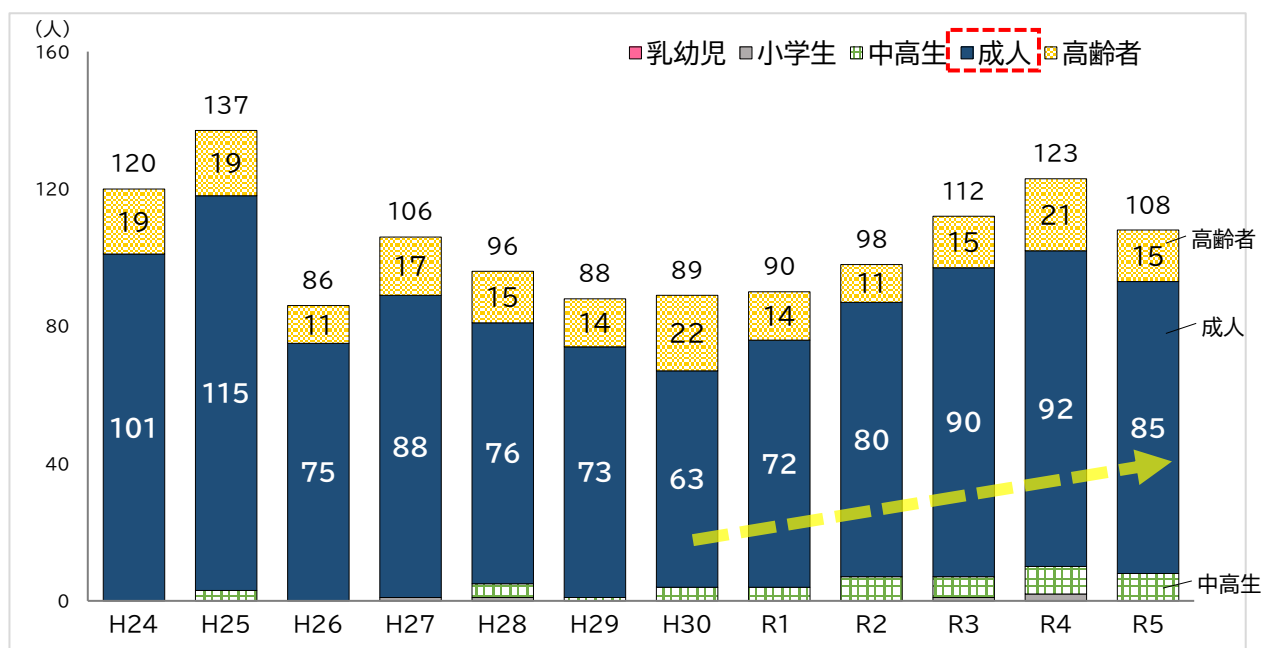
②[図 4-23]転倒

転倒による搬送人員数は、高齢者が増加傾向にある。



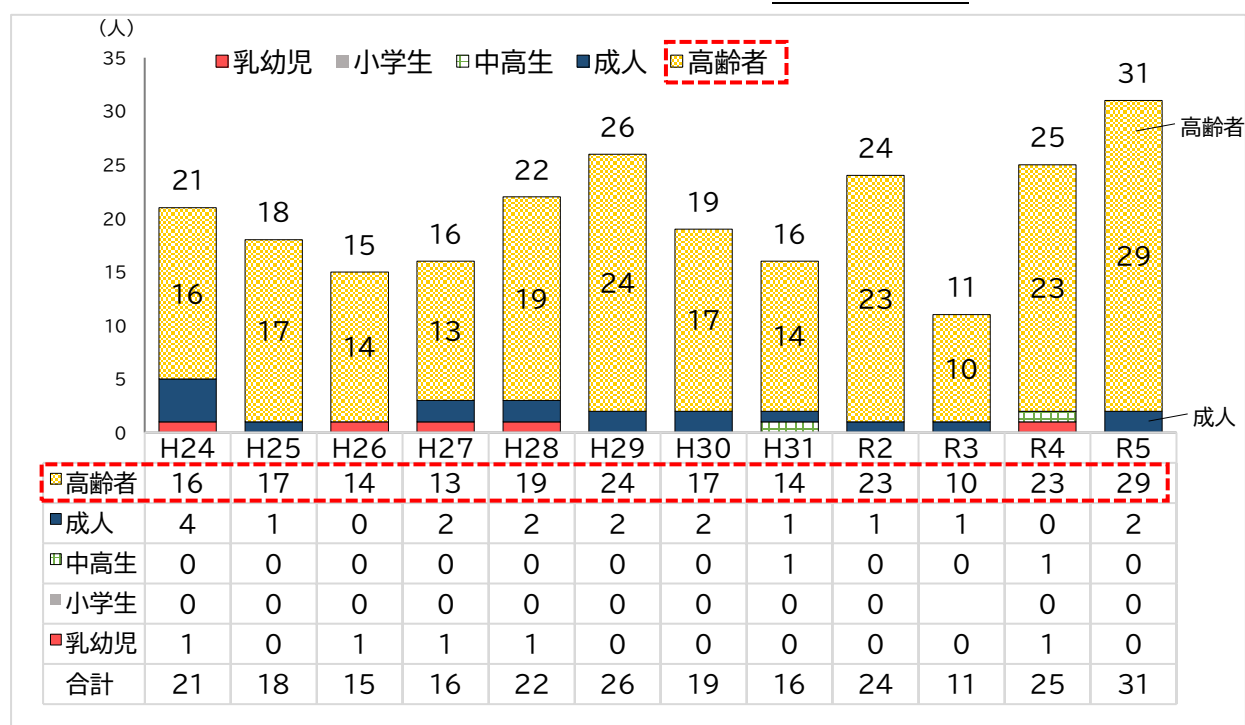
③[図 4-24]自損行為

自損行為による搬送人員数は増加傾向にあり、特に成人の搬送数が増加傾向にある。



③[図 4-25]溺死・溺水

溺死溺水による搬送人員数の多くは、高齢者が占めており、増加傾向にある。



(12) 発生場所「浴室（シャワー室、洗面所を含む）」の搬送人員数（65 歳以上）

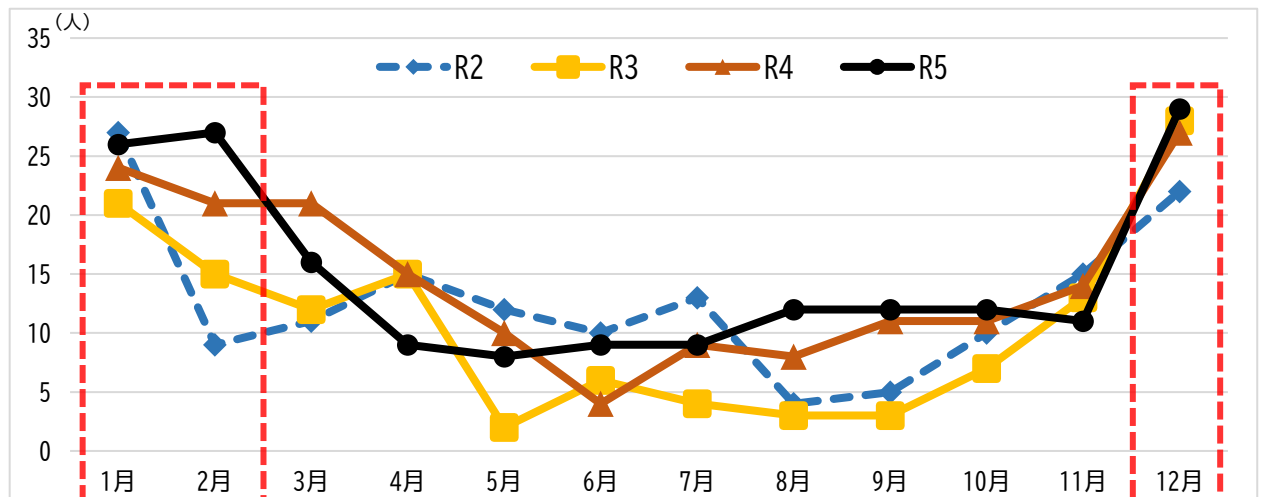
※火災、自損行為は除く

※外因によるものだけでなく急病等も含む

冬は搬送人員数が多くなる。

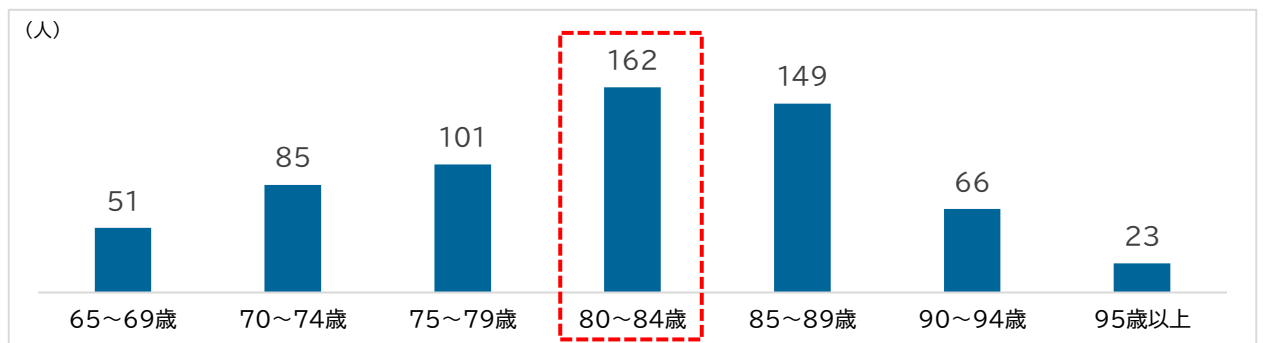
80～84 歳になると急増する。

■[図 4-26] 月毎の浴室からの高齢者の搬送人員数（R2～R5）



■[図 4-27] 年齢ごとの搬送人員数（R2～R5）

n=637



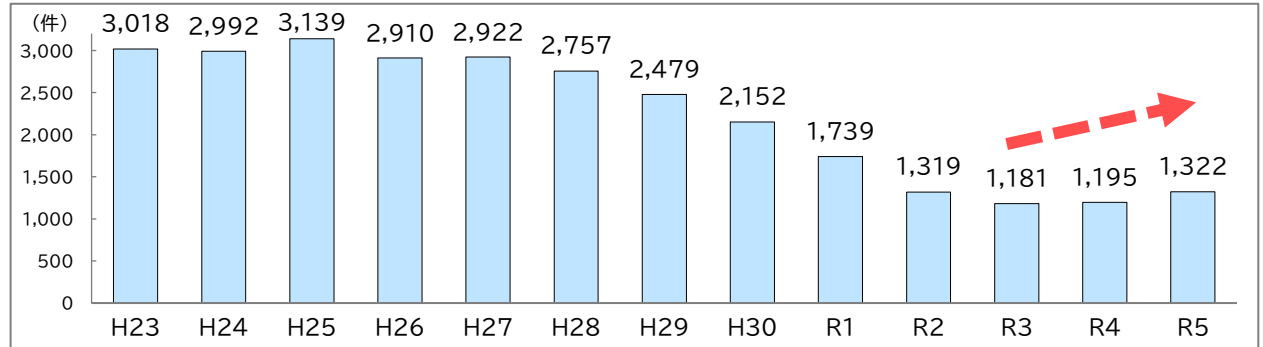
5 交通事故に関する状況（警察統計）

（１）久留米市の交通事故発生状況

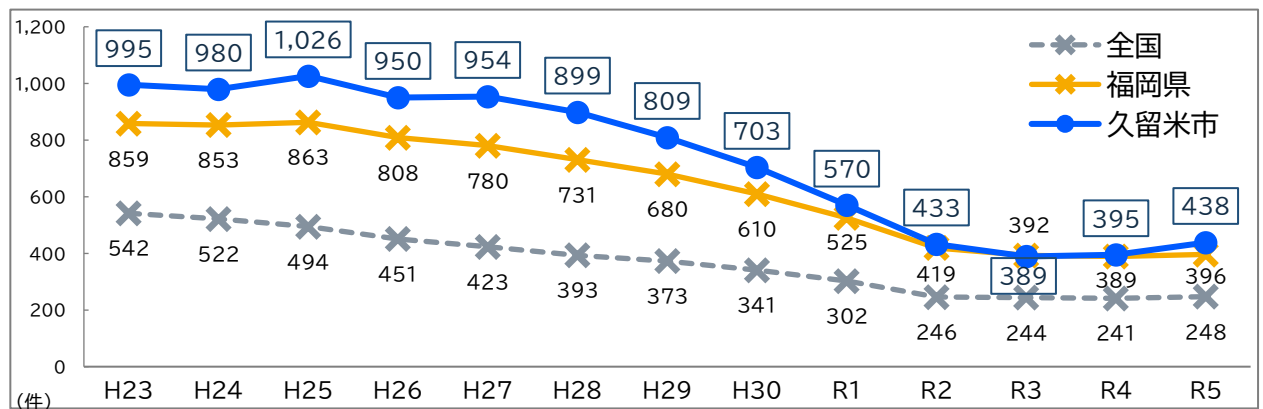
コロナ禍で急減した交通事故発生件数は、令和４年以降増加傾向にある。[図 5-1]

また、縮小していた人口 10 万人当たりの交通事故発生件数の福岡県や国との差は、令和４年以降拡大している。[図 5-2]

■[図 5-1]久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図 5-2]人口 10 万人あたりの交通事故発生件数の比較（久留米市、福岡県、全国）

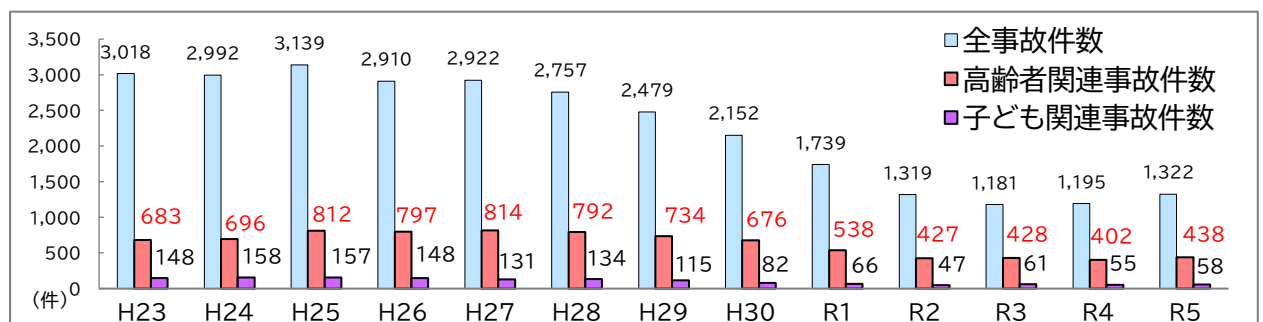


（２）高齢者関連事故について

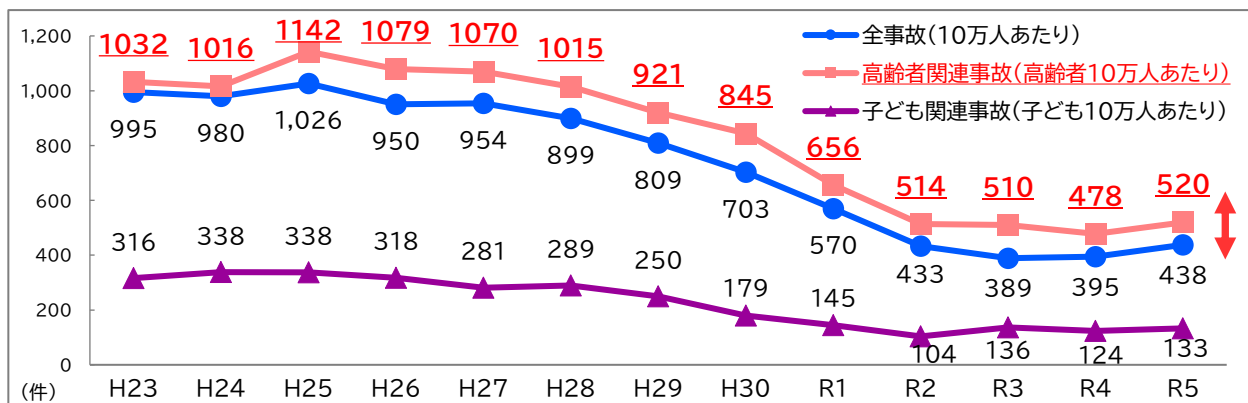
高齢者が関わる交通事故件数は減少傾向にあるが、各年齢層の人口比でみると高齢者関連事故件数は、久留米市全体の交通事故発生件数を上回っている。[図 5-4]

人口 10 万人当たり的高齢者関連交通事故の件数は、福岡県の値を上回っている。[図 5-5]

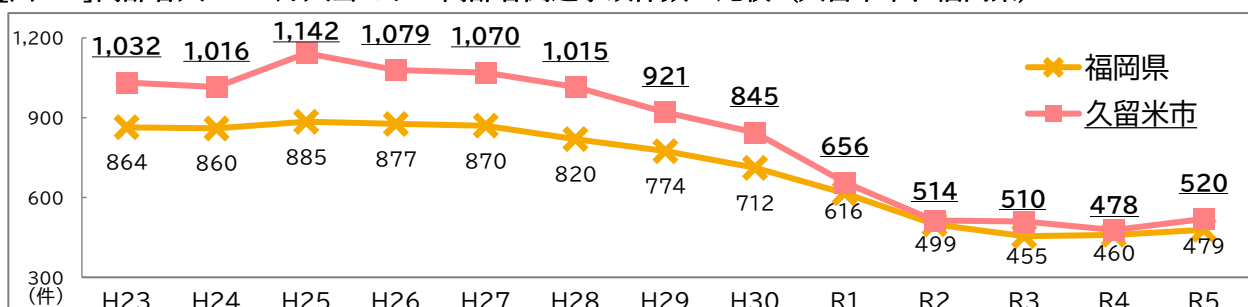
■[図 5-3]年齢層毎の久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図 5-4]年齢層毎の人口 10 万人当たりの久留米市の交通事故発生件数の推移



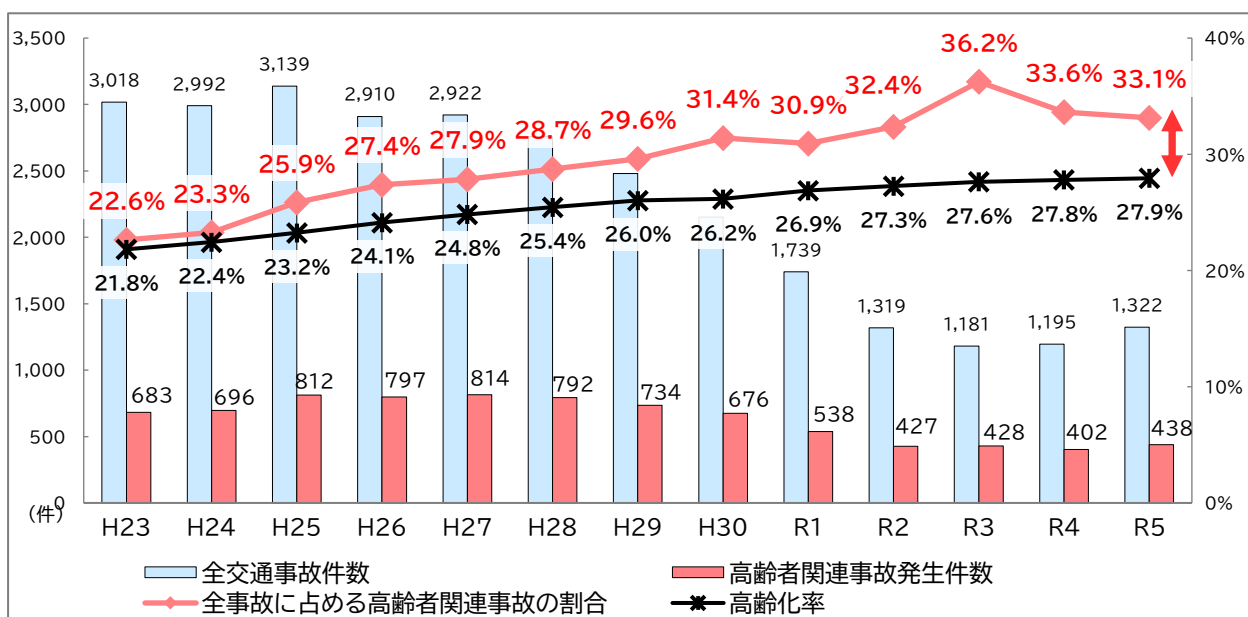
■[図 5-5]高齢者人口 10 万人当たり的高齢者関連事故件数の比較 (久留米市、福岡県)



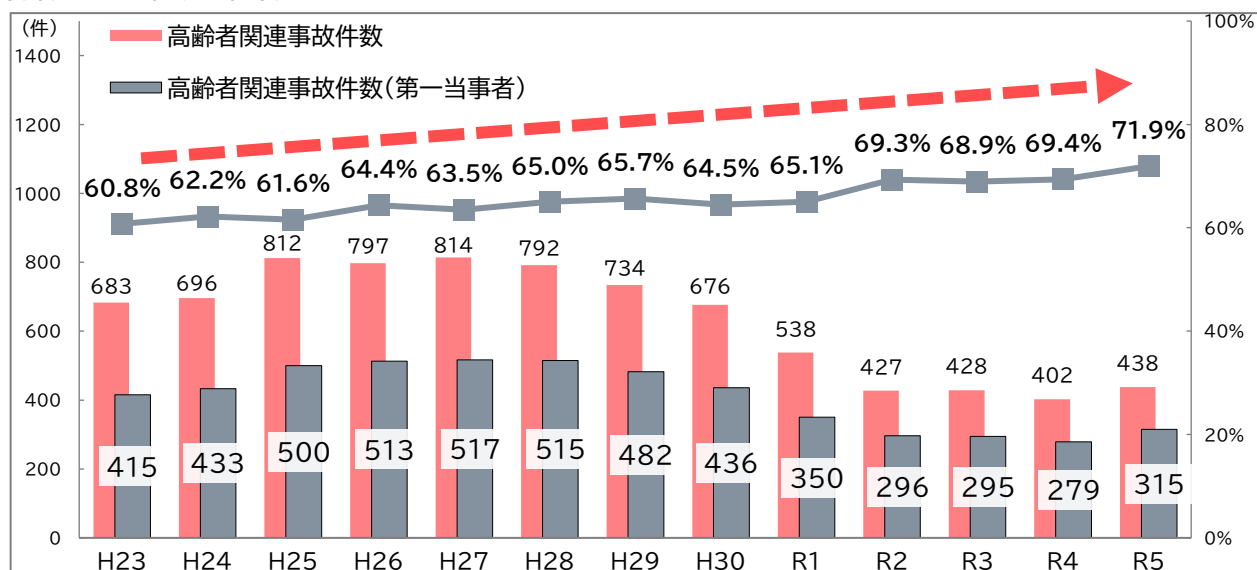
コロナ禍で発生件数は減少していたが、全事故に占める高齢者関連事故の割合はコロナ禍前より増加しており、久留米市の高齢化率を上回っている。[図 5-6]

また、高齢者関連事故に占める高齢者が加害者（第一当事者）となる交通事故の割合は増加傾向にある。[図 5-7]

■[図 5-6]高齢者関連事故の発生件数、及び全事故に占める割合

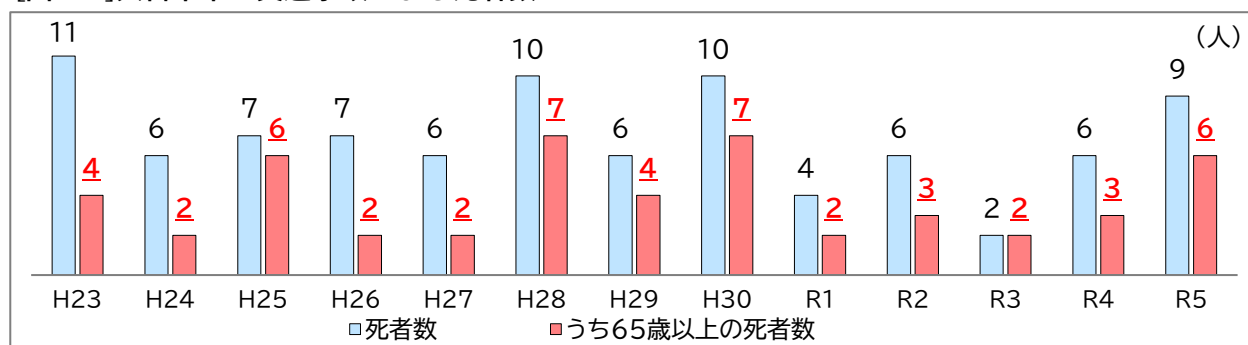


■[図 5-7]高齢者が加害者（第一当事者）の事故の件数、及び高齢者関連事故に占める高齢者が加害者となる事故の割合

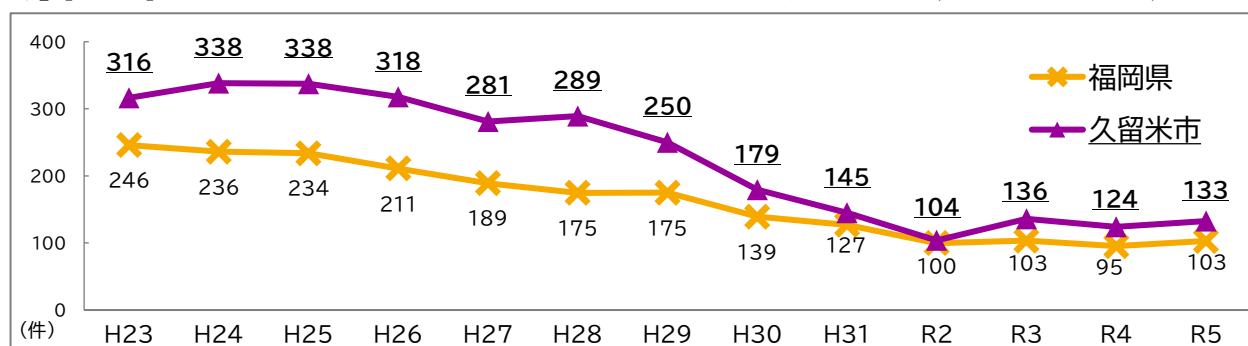


久留米市内の交通事故による死者の半数以上が高齢者である。

■[図 5-8]久留米市の交通事故による死者数



【参考】[図 5-9]子どもの人口 10 万人当たりの子ども関連の事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）

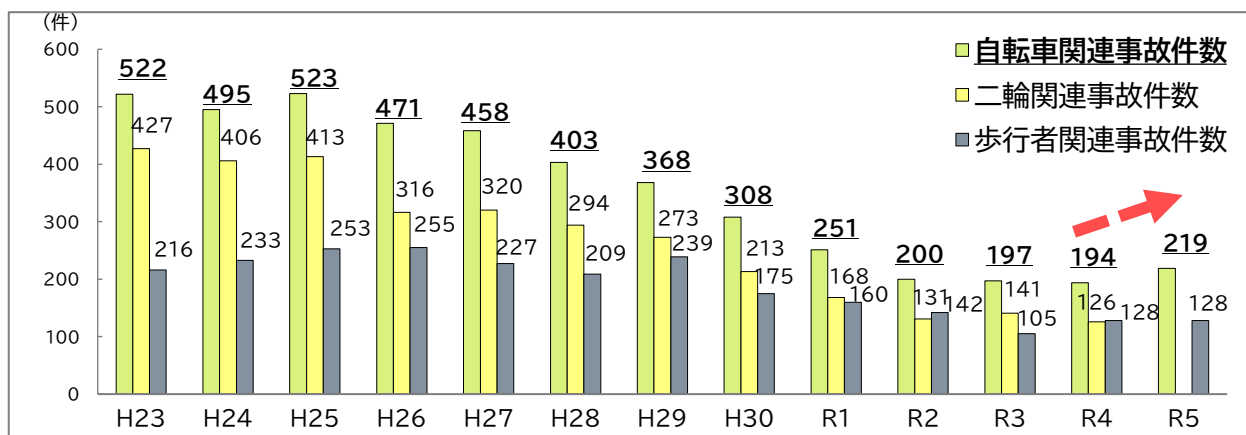


(3) 自転車関連事故について

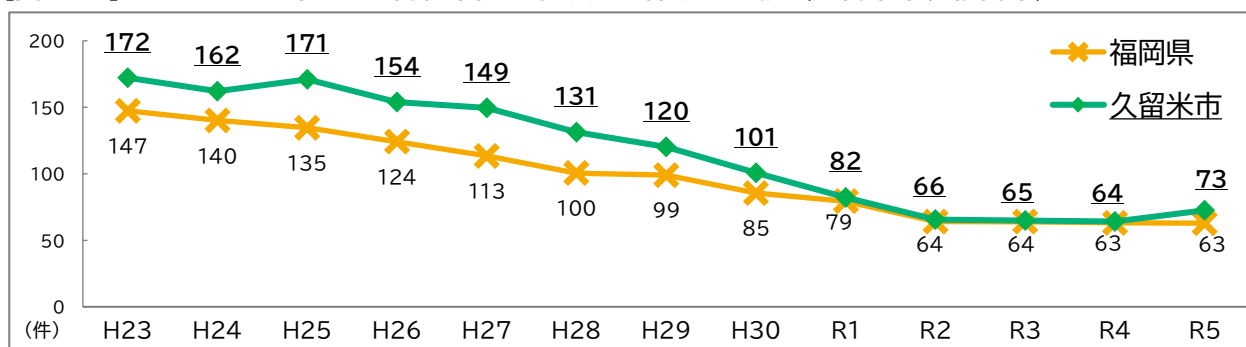
自転車関連事故件数は減少傾向にあったが、令和5年は前年より増加した。[図 5-10]

県と同水準だった人口 10 万当たりの自転車事故発生件数についても、令和5年には差が拡大した。[図 5-11]

■[図 5-10]久留米市の車両別交通事故発生件数等の推移



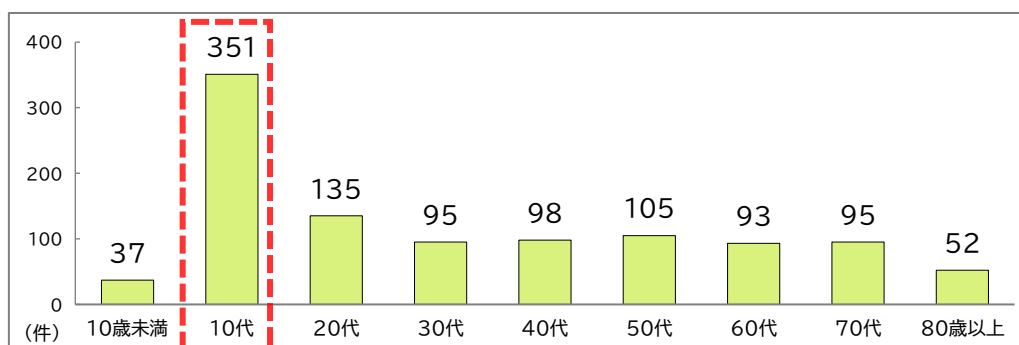
■[図 5-11]人口 10 万人当たりの自転車関連事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）



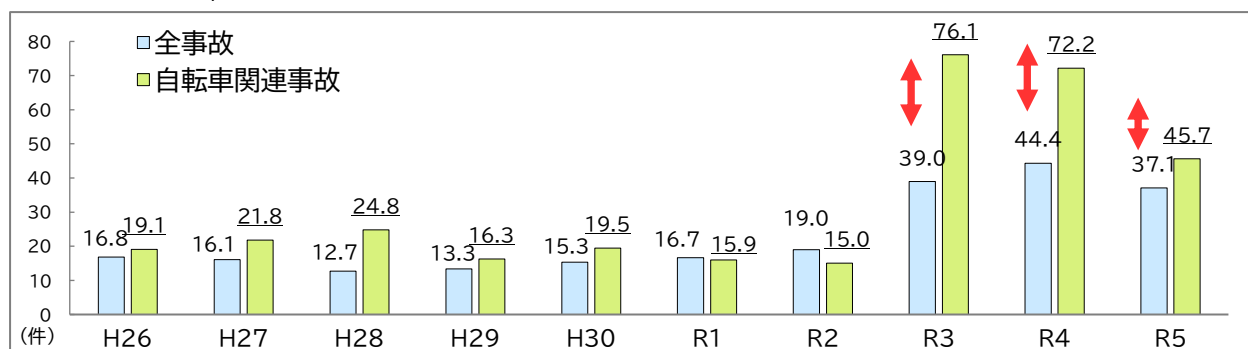
年齢別にみると、自転車関連事故は 10 代の事故件数が突出して多い。[図 5-12]

また、死亡や重傷に繋がる交通事故は、事故全体に比べ自転車関連事故の方が高い状況である。[図 5-13]

■[図 5-12]年齢層毎の自転車関連事故発生件数（R1～R5 年の累計）



■[図 5-13]事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数の比較



(4) 近年の事故の傾向

令和 3 年以降、死亡や重傷となる事故に繋がりがやすくなっている。

■[図 5-14]各事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数

